

『大腸穿孔における予後予測因子に関する検討』 に対するご協力をお願い

研究の目的と意義	大腸穿孔とは大腸に何らかの原因で穴が開いてお腹の中に便が漏れてしまう疾患で、重症の場合は命に関わります。悪い経過を辿ってしまう患者様の特徴を調査することで、我々医療者が何に注意して治療にあたれば良いかを明らかにするのが本研究の目的です。
研究の方法	電子カルテから、大腸穿孔で手術を行った患者様のデータを抽出し、何が悪い経過に關与しているのかを統計学的手法を用いて算出します。
対象者	西暦2020年1月1日～2025年9月30日の間に、大腸穿孔で当院に入院して手術を受けた方
利用する試料/情報	試料：血液、手術で摘出した組織 情報等：診断名、治療歴、年齢、性別、生年月日、採血データ、手術所見、入院後の経過等
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究 【研究代表機関】 済生会横浜市東部病院 山下幾太郎(研究代表者)
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	日本消化器学会で発表予定
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2030年3月1日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 救急科/医長/山下幾太郎
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 救急科/山下幾太郎